

令和4年度 第1回 学校運営協議会

日 時：令和4年11月17日（木）18：00～19：30

場 所：高知県立清水高等学校 会議室

参加者：（委 員）岡崎哲也（学校関係者）、斧川哲也（学校関係者）、草場実（学識経験者）、
程岡庸（地域住民）、小泉貴裕（地域住民）、二宮真弓（地域住民）、
酒井りつ子（地域住民）、市原庸寛（清水高等学校長）
（学 校）田中修一（全教頭）、泥谷耕二（定教頭）、岡本直也（事務長）、
南友博（主幹教諭）
（県教委）土方聖志（高等学校課チーフ）

記 録：

[開会] 校長 あいさつ

高等学校課 あいさつ

[自己紹介]

[会長・副会長選出]

[学校説明]

[協議]（抜粋）

- 先日、（高校の）授業を参観したが、教職員が一人一人の生徒に寄り添いながら指導をされていることに感動した。学校生活への安心感が見られた。
- 清水中学校からどれくらいの生徒が進学しているか。
- 本年度の入学生については、清水中学校の卒業生の半数程度が進学したが、それ以前については30～40%が進学している。
- （清水高校に入学してきた生徒たちの）中学校での学力はどうだったか。
- 残念ながら、地元高校に進学することについて、考え方に甘えがある部分が見られたところもある。かつては「入試で不合格になるかもしれない」という危機感もあったが、現在では、（そのような危機感も薄く）学習意欲は低下しているかもしれない。本当はもっとできるのだが、やらせてないかもしれない。
- 現在、清水高校ではD層が40%程度存在する。何とかC層に上げたい。そのためには小中高が連携し、学力向上に向けた取組を進めなければならない。
- 先日、高校生が地域のイベントに参加し、いろいろなところで活躍している姿が見られた。地域との触れ合いが生徒たちを大きく成長させるのではないかと思う。
- 地域イベントでは、清水高校について市民の皆さんに認知していただく絶好の機会となったと思う。学習発表等の機会では生徒たちは大きく成長する。発表を通して生徒たち

の意識は変わる。

- 地域とのつながりが学校の魅力化につながると考える。地域の基幹産業について体験的な学びを深めることも大切なのではないか。
- 地域との交流を深めることは、関わる教職員にはいろいろな苦労があると思うが、教育効果は非常に高いと考える。地域のサポートを受けながらなんとか取組を発展させてほしい。
- 自己肯定感を高めるには、幼児からの体験が重要であると考え。保幼小中高の連携が大切である。
- フェア・ヘイブンとの交流については、交流を発展させ、将来的には半年から1年程度の留学へ進化させたいと考えている。
- 現在、大学で、科学分野と探究分野について学生に指導している。いくつかの高校では、探究が学校の軸になっているところもある。探究を通して身に付けたスキルが、教科の学習に生かされることが大事である。県内のある高校を卒業した学生の中で、「地域が自分を育ててくれた」という思いを持ち将来は地元で教員をしたいとがんばっている者がいる。地域で育てることで、やがて地域に戻ることになると思う。今、土佐清水市と清水高校が目指していることは素晴らしいと考える。
- 先日、清水高校の3年生をホテルで歓待するイベントを行った。そのような体験をすることも意義はあったが、もう少し踏み込むと、生徒自身もてなす側にまわり、どのような準備をすればいいかを考え、行動する機会としてもよかったと考えている。地元で、高校生が主体となり企画や取組を考えるようにしたい。
- 地域での体験活動を学際的な学びにつなげる好機となるのではないか。ぜひ、このような具体的な取組案を持ち寄りたい。次回では、委員からこのようなアイデアを多くいただきたい。

[閉会]